



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3310 号 2016.10.20 発行

<介護の行方>企業自ら研修 人材発掘

河北新報 2016年10月19日



介護福祉士（右端）の指導を受けながら、排せつ介助の仕方を学んだ研修

国は、親をはじめ家族の介護で離職や転職を余儀なくされることのないよう「介護離職ゼロ」を目指している。対策として介護の担い手を増やすことが急務だが、介護士らの待遇改善は進んでいない。介護職に「3K」（汚い、きつい、給料が安い）のイメージがある中で、担い手をどう確保していくのか。少子高齢化が全国最速で進み、「日本の将来の縮図」とも言える秋田県の介護現場で現状と課題を探った。（秋田総局・

今愛理香）

◎少子高齢日本一の秋田から（上）担い手育成

<「先進的」と注目>

「絶対に体から手を離さないで。膝と肩を同時に動かして」

秋田市大町2丁目の介護施設「きららアーバンパレス」で9月25日、介護職員初任者研修の講座「きらら医療福祉アカデミー」があった。高校生を含む受講生12人が、施設の介護職員の指導を受けて排せつ介助の仕方を学んだ。

アカデミーは、アーバンパレスなどを経営する「きららホールディングス」（秋田市）が運営する。主に社会福祉協議会などが開く初任者研修講座を企業が独自に開設するのは全国的にも珍しく、「先進的な取り組み」（厚生労働省）として介護関係者の注目を集める。

同社がアカデミーを始めたのは2014年7月。希望者が少なく講座を開けない市や町の社協があることなどを知り、「介護士を目指す人自体が減っている。自分たちでも人材育成の場をつくらないといけない」（佐々木誠宏学院長）と危機感を抱いたからだった。

<休日開催が好評>

秋田県内の介護福祉士の新規登録者数は、年々減少している。県社協によると、14年度は前年度比44人減の1191人。団塊の世代が75歳以上となる25年には、約2800人が不足すると見込まれている。

同社は講座を毎週日曜に開催。平日にある社協の講座に参加できない、介護業界への就職を希望する高校生や転職を考える社会人ら幅広い層を取り込む。さらに、自前の施設での実習を盛り込んでおり、参加者からは「職員が直接指導してくれるのは分かりやすく勉強になる」（高校3年女子）と好評だ。

佐々木学院長は「受講者の学びの選択肢が広がり、より人材を増やすことにつながる」と、企業が初任者研修を開く意義を強調する。2年間で32人が修了し、ほぼ全員がきららグループの施設で働く。

企業の参入により担い手育成の入り口が広がりつつある一方で、担い手の将来は不透明なままだ。自宅で部分的に介護サービスを利用する比較的要介護度が軽い「要介護1」「同

2」の認定者を、国が介護保険サービスから切り離すことを検討しているからだ。

「要介護度の軽い人を介護保険サービスから切り捨てれば、県内の半数近い施設が倒産するだろう」。アーバンパレスの現場統括者鎌田勝さん（30）は指摘する。県内は要介護者約5万5000人のうち、5割近い約2万6900人を要介護1と同2が占めており、そうした人々を切り離せば、施設の経営を悪化させる恐れがあるからだ。

「倒産が増えれば、せつかく育てた担い手が行き場を失う上に、『介護難民』が増える悪循環になりかねない」。鎌田さんは不安を募らせる。

〔介護職員初任者研修〕介護の仕事に就くための基礎、条件となる研修。座学と実技を計130時間学ぶ。秋田県内では市や町の社会福祉協議会を中心に約30の事業所が講座を開設。国家資格の介護福祉士を受験するには、研修終了後、現場での実務者研修が3年必要になる。

障害者と寄り添いゴールへ 安中で「まついだ夢伝」参加者400人が快汗

東京新聞 2016年10月19日

スタートする車いすの参加者＝安中市で



障害者と健常者がともに歩き、走って触れ合う「第二十四回まついだ夢伝」が十六日、安中市松井田支所を発着点とする約四キロの周回コースであり、約四百人の参加者が伴走のボランティアとともに心地よい汗を流した。

大会は、障害者と健常者の交流を目的に、元五輪マラソン選手の増田明美さんと東京都豊島区の障害者施設「ゆきわりそう」の姥山寛代代表の提唱で一九九三年、旧松井田町で始まり、その輪を全国に広げている。障害者の伴走や大会運営は、県立安中総合高校、同松井田高校の生徒や県内の企業、市内団体などの約三百五十人のボランティアスタッフによって支えられている。

市内の九歳の双子の兄弟小林悠斗君と大斗君による選手宣誓の後、参加者は「ウォーク」「車いす」「マラソン」などのクラスに分かれて元気良くスタート。観客やスタッフらが応援する中、次々に笑顔でゴールを果たした。ゴール後はボランティアがふるまう、きのこ汁やつきたてのもちに舌鼓を打っていた。

病気のため出席できなかった姥山さんに代わり、長女でゆきわりそう代表代行の松本伸子さんは「障害が重度の人でも自身で理解し毎年継続して参加している。自然を感じ夢を持ってゴールに向かっている」と、夢伝の意義を話していた。（樋口聡）

「日常にアート」届けます 障害者団体が新プロジェクト 松江／島根

毎日新聞 2016年10月18日

イベントがあった日は、店内にコーヒーの香りが漂う中、よしとさんが紙芝居を披露した＝松江市殿町のリブルで2016年10月7日、藤田愛夏撮影



社会福祉法人「ふらっと」（松江市）が運営する印刷事業所「ピー・ター・パン」（同市）が今月、地元アーティストの作品を身近な場所で展示するアートプロジェクト「Artie！（アートイエイ）」を始めた。「日常にアートのある生活を」と企画し、第1弾を同市殿町の喫茶店「libre（リブル）」で開催。自家焙煎（ばいせん）コー

ヒーが香る店内でアートを楽しめる。31日まで。【藤田愛夏】

ピー・ター・パンは障害者約30人が勤務し、名刺やTシャツの印刷を手がける

障害者にモロコ養殖で働く場 津島の施設

中日新聞 2016年10月19日

モロコの漁獲作業をする利用者ら＝津島市中一色町で



障害のある人の働く場を増やそうと、津島市上新田町の障害者施設「あいさんハウス」が海部地域周辺の郷土料理に使う淡水魚「モロコ」を養殖している。昨年から取り組み始め、今年は二十キロの漁獲があった。二十二日に施設の駐車場で開く地域交流イベント「あいさんフェス」で販売する。

体長一〇センチほどの細身の魚を円形の網ですくうと、ぴちぴちとはねる。今月上旬にあった市内の養殖場での漁獲作業。泥でぬかるみ歩きにくい、施設利用者の池沢敏さん（23）は「収穫は転びそうで大変。でも、もろこずしが好きなので楽しみ」と笑った。

モロコは甘辛く煮て、押しずしにする「もろこずし」が代表的な郷土料理。海部地域のすし店などで食べることができる。同地域の川などで捕れるが、近年は漁獲量が減り、京都の料亭などでは高級食材として取引されることもある。

そこで施設が目をつけたのがモロコの養殖。モロコが売れば、「利用者の賃金の増加につながる可能性がある」（施設の担当者）と、市内にある金魚の養殖場を借り、昨年からはホンモロコと呼ばれる種類の養殖を始めた。

金魚の養殖経験がある職員を指南役にして、利用者十人ほどが餌やりや漁獲作業を手伝ってきた。担当者によると、今年は猛暑の影響もあり、死ぬモロコも目立った。それでも昨年とほぼ同じ二十キロが捕れた。

あいさんフェスは参加自由。養殖場で捕れたモロコでもろこずしを作り、一人前百五十円で売る。障害者が手掛けた製品の販売や、利用者がダンスを披露するイベントもある。

モロコは将来出荷することも視野に入れている。担当者は「モロコの養殖を賃金の増加につなげるには、販路の拡大がかぎ。まずは地域の人たちに施設を知ってもらうきっかけになれば」と話している。（問）あいさんハウス＝0567（24）3725（清水裕介）

「ごみ屋敷」丁寧に対応、6割解決...東京・足立

読売新聞 2016年10月18日

東京都足立区は、ごみをため込んで近所に迷惑をかける「ごみ屋敷」について、専門組織を設置した2012年度から今年8月末までに104件の家屋でごみを撤去させるなど、ごみ屋敷を解消した。

同期間に通報を受けたのは167件で、解決率は6割に達した。いずれも行政代執行などの強制措置を行わずに解決しており、区は「地域住民に安心してもらえるよう、今後も解決に取り組む」と話す。

区は13年1月、他自治体に先駆けて「足立区生活環境の保全に関する条例」（通称・ごみ屋敷対策事業）を施行。指導に従わない悪質なケースは個人名を公表するとし、一方、家主の生活支援を行うなど「アメとムチ」を併用した包括的な対策を進めてきた。

区内では、葛飾区と品川区で空き家やごみ屋敷の撤去について、空家対策特別措置法に基づく行政代執行が行われている。足立区は、いずれも行政指導の段階で、ごみの撤去や樹木の伐採が済んでおり、強制的措置は1件もないという。

区では、条例で、敷地を越えた樹木の繁茂、事業者による資材の管理不全なども対象としており、それらを含めると、今年8月末までに計595件の通報を受け、全体の7割強にあたる計449件を解決させた。

区によると、ごみ屋敷は家主の疾病や生活困窮など複数の要因が複雑に絡み合っており、行政の介入を拒むケースも多いという。一時的にごみを片づけても、こうした問題の根を断たないと一定期間後に再燃してしまうため、高齢者福祉や介護、老朽家屋を所管する関係部署などと連携しながら対処してきた。

条例制定のきっかけとなった70歳代の男性宅のケースでは、男性が転売目的で収集した空き缶や鉄くずを積み上げた「壁」が敷地をはみ出して歩道を占有。男性に精神疾患の症状が見られたため、専門医を手配したり、入院手続きをとったりした上で、家族の同意で「壁」を撤去。家屋の解体後の土地売却代を一連の撤去費用に充てた。解決まで20年近くを要したが、男性は現在、区が手配した老健施設で過ごしているという。

区生活環境保全課の祖傳和美課長は「ごみ屋敷化する背景はそれぞれ異なり、今後もあらゆる方策を尽くして丁寧に解決していきたい」と話している。

障害者施設家族会の全国大会、福岡市で開幕 「この世に生まれる必要のない人間はいない」

西日本新聞 2016年10月18日

福岡市で開幕した全国知的障害者施設家族会連合会の全国大会



全国知的障害者施設家族会連合会の大会が18日、福岡市博多区のホテルで開幕した。7月に相模原市の「津久井やまゆり園」で19人が刺殺された事件について、由岐透理事長は「この世に生まれる必要のない人間はいない。容疑者のような間違っただけの思想の持ち主が二度と現れないよう社会のひずみを正していかなければならない」と呼び掛けた。

連合会はやまゆり園を含む534施設の入所者の家族会（計3万7921人）で構成。全国大会は交流と勉強のために2005年から毎年開かれ、今年は約650人が参加している。

冒頭に全員で黙とう。基調講演で、北九州市立大の小賀久教授は「障害者はいない方がいい」との容疑者の考え方は、社会に潜む優生思想の表れだとして「障害者を大切にする社会は全ての人を大切にする社会だと家族が確信を持って訴え掛ける必要がある」と提案した。大会は19日まで。

管理していた認知症・知的障害者の通帳盗み現金引き出す 滋賀県湖南市社協の元嘱託職員逮捕

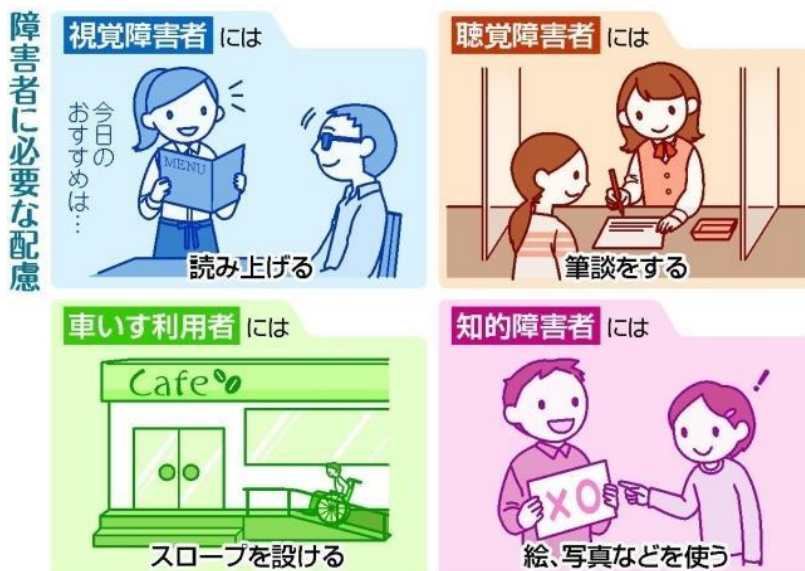
産経新聞 2016年10月19日

滋賀県湖南市社会福祉協議会の嘱託職員が、認知症の人や知的障害者に代わって管理していた預金通帳から現金を引き出した問題で、同県警甲賀署は18日、窃盗と詐欺の疑いで同市岩根の元嘱託職員、牧田聡美容疑者（48）＝懲戒解雇＝を逮捕した。容疑を認めている。

逮捕容疑は、6月29日、同社協の金庫から管理していた対象者の通帳1通と印鑑1本を盗み、同市内の金融機関の窓口で預金払い出しの承認を得ているように装って、現金11万円をだまし取ったとしている。

同社協によると、牧田容疑者は、認知症の人や知的障害者などの預金通帳を本人に代わって管理する「地域福祉権利擁護事業」に携わり、約30人の生活支援を担当していた。

9月下旬に利用者の書類整理などを行っていた際、通帳に不審な入出金があり発覚。今月に入って同署に被害届を提出し、17日に懲戒解雇していた。同社協は、牧田容疑者が男女5人の口座から計約210万円を着服していたとしており、同署は余罪についても調べている。



障害に応じた気遣いを障害者への差別をなくすには、どんな配慮が必要なの？

障害のある人たちは、日常的に差別を受けたり、不便な思いをしたりしている。こうした状況を改めるため、4月に「障害者差別解消法」が施行された。

飲食店で盲導犬を連れてきた人の入店を断る、障害があるというだけでアパートを貸さない。法律では、役所や会社、店にこうした不当な

差別を禁止したんだ。

差別する気持ちはなくても、結果的に差別になってしまうこともある。建物の入り口に段差があると、車いすの利用者は入れない。電車の遅れなどを知らせる駅のアナウンスは、聴覚障害者には聞こえない。

そこで法律では、障害者の不便さを解消するため、できる限り配慮することを求めている。「合理的配慮」と言い、役所には義務づけられ、会社や店は配慮するよう努めなければならないとされた。

合理的配慮とは、例えば、レストランで店員が視覚障害者にもわかるようメニューを読み上げる、銀行の窓口で行員が聴覚障害者と筆談でやりとりするといったこと。会話を理解するのが難しい知的障害者と、絵や写真などを使ってコミュニケーションすることも、合理的配慮だね。

配慮は、負担が重くなりすぎない範囲で行うことが認められている。喫茶店の入り口に段差があるとしよう。スロープを買って取り付けるのが一般的だが、経営的に難しかったり、スペースの関係で設置できなかつたりすることもある。その場合は、車いすの利用者が入店できるよう店員が介助する。ちょっとした気遣いが大切なんだ。

配慮をせず、障害者の不便さを放っておくことも差別になる。差別行為への罰則はないが、会社や店が何度も繰り返し、改善しそうな場合、国は会社や店に報告を求め、助言や指導などを行うことができる。

日本には推計約860万人の障害者がいる。高齢化で今後も増えそうだ。車いすの利用者が使いやすい店や施設は、ベビーカーを押す人や、大きな荷物を持った人も使いやすいよね。障害者差別解消法は、すべての人が暮らしやすい社会をつくるのが狙いなんだ。(安田武晴)

社会保障、維持への「不安」93%...読売調査

読売新聞社は、社会保障に関する全国世論調査（郵送方式）を実施した。年金、医療、介護などの社会保障制度を今後維持できなくなる不安を「感じる」とした人は、「大いに」と「ある程度」を合わせて93%に達した。将来、自分が希望する介護サービスを受けら

れないのではないかと不安を感じる人も、「大いに」と「ある程度」の合計で87%に上った。少子高齢化の進展で社会保障費が増え続ける中、先行きを不安視する人が多いようだ。一方、増え続ける社会保障費を高齢世代と現役世代でどのように負担すべきかを尋ねると、「高齢世代、現役世代ともに負担を増やす」が51%で最も多かった。「現役世代の負担を増やす」は17%、「高齢世代の負担を増やす」は16%だった。

ビジネス特集 “アニメ聖地”を全国に 目標400万人

NHK ニュース 2016年10月18日

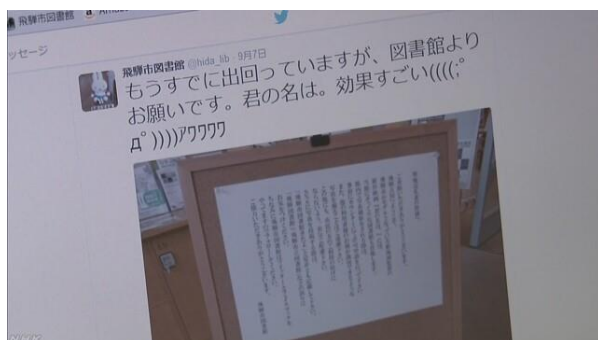
大ヒットとなった東宝のアニメ映画「君の名は。」 邦画としては8年ぶりに興行収入が150億円を超えました。その経済効果は映画館の外にも及んでいます。この映画に登場する地方の町が、岐阜県飛騨市をイメージして制作されたことから、たくさんのファンが映画に登場する駅や神社などを目当てに飛騨市を訪れています。アニメ作品の舞台になった場所を実際に訪れることをファンは“聖地巡礼”と言いますが、全国に「アニメ聖地」を広げようと観光業界も動き始めました。(岐阜局 飯沼祐月/経済部 橋本知之)

市図書館にツイート1万件！

アニメーション映画監督、新海誠さんが手がけた「君の名は。」

地方の町に住み、都会に憧れる女子高校生が東京の男子高校生と体が入り代わる物語で、2人が会えそうで会えない切ないストーリーや緻密に描かれた風景が人気を呼び、大ヒットしています。

この映画に登場する地方の町が岐阜県飛騨市をイメージして制作されたことから、映画の公開後、たくさんのファンが飛騨市を“聖地巡礼”と称して訪れるようになりました。そこで飛騨市は、ファンにとって“聖地”とされる町並みを巡る観光コースを提案し、市の公式サイトで掲載を始めました。



この中には、物語でアニメの登場人物が列車に乗ってたどり着く「飛騨古川駅」や「気多若宮神社」などのスポットが住所や到着までの所要時間とともに示されています。

映画にも登場する「飛騨市図書館」では、通常、写真撮影が禁止されている館内を訪れるファンのために、窓口で許可を取るなどすれば、撮影できるように配慮し

ました。この取り組みを図書館の職員がツイッターに投稿したところ、ふだんは数件ほどしか寄せられないツイートが1万件を超えました。

飛騨市観光課の横山理恵さんは「飛騨市を訪れた人が写真をSNSにアップすれば大きな宣伝になります。映画の力を借りて、市の新たな魅力を全国に発信していきたいです」と話しています。

大垣市では“筆談ノート”も

岐阜県内の「アニメ聖地」は飛騨市だけではありません。

9月に公開されたアニメ映画「聲の形」(こえのかたち)。聴覚に障害がある少女と元同級生のふれあいを描いた作品で、現代の若者たちの心の痛みを鋭く、そして温かく描き出しています。

原作は岐阜県大垣市出身の女性漫画家、大今良時さん。映画の舞台の地名は架空ですが、

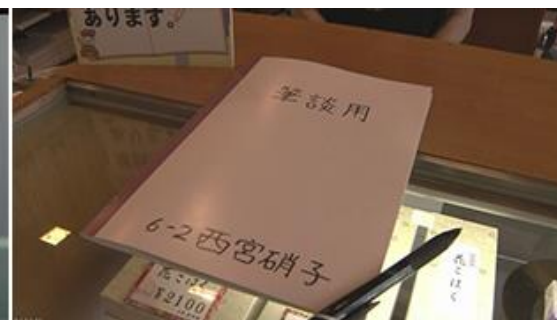
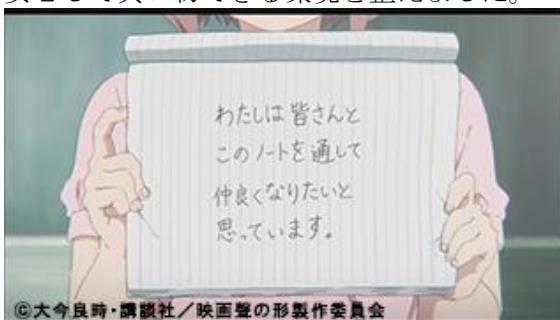


物語には大垣駅前の商店街や桜並木が美しい美登鯉橋などの風景が描かれていて、映画の世界を追体験しようと多くのファンが訪れています。



作品は、聴覚障害の少女が主人公の物語。映画をきっかけに、聴覚に障害のある人が大垣市を訪れた際に、簡単な会話ができるようにと観光ボランティアの人たちが手話の練習を始めました。観光案内には手話通訳にも同行してもらいます。

商店街にある和菓子店には「筆談ノート」も置いてあります。映画の中では、主人公の少女が「筆談ノート」を愛用し、クラスメイトとのコミュニケーションを図る重要な役割を果たします。これをヒントに商店街の23の店と観光施設が「筆談ノート」を用意し、安心して買い物できる環境を整えました。



商店街の担当者は「ノートを置くだけでも、聴覚に障害のある人がコミュニケーションを取りやすくなると思いました。これをきっかけに、障害のある人も気軽に楽しめるような環境が少しずつ整えられるとよいです」と話していました。

88か所をアニメ聖地に

こうした“アニメ聖地”を全国に広げようという取り組みも始まりました。

ことし9月に設立されたのは、その名も「アニメツーリズム協会」。アニメや漫画の舞台やモデルになった地域、それに作家ゆかりの街などを「アニメ聖地」として、全国に88か所を認定し、海外からも観光客を呼び込めるルートなどを整備しようというのです。

協会の理事長は「機動戦士ガンダム」シリーズでおなじみの富野由悠季監督です。メンバーには、出版社の「KADOKAWA」、旅行会社の「JTB」、航空会社の「日本航空」、それに空港運営会社の「成田国際空港」など観光に関係する幅広い業界が名を連ねました。

協会が目指しているのは、「アニメ聖地をつないだ広域周遊観光ルートの形成」です。ア



ニメ聖地を、四国88か所の霊場巡りのように、まわってもらおうという狙いです。認定されたアニメ聖地は、協会のホームページで紹介したり、現地に立て札を設置したりすることなどを検討しています。

協会では、ホームページでアニメ聖地を募集する第一次の投票受け付けを始めました。協会では、ことしいっぱいまで投票を受け付け、来年に結果を発表したいとし

ています。

観光客“400万人”目標

「アニメツーリズム協会」は、旅行会社などと協力して、アニメ聖地を巡るツアーの実現も目指したい考えです。たとえば、鳥取県の「水木しげるロード」や「青山剛昌ふるさと館」、それに兵庫県西宮市の「涼宮ハルヒ」シリーズに登場する学園の舞台を、バスや鉄道などで巡るツアーが今後できるかもしれません。

ただ、最近では個人旅行が主流となるなかで、ツアーで旅行してもらうための付加価値をどう構築するか。また、地元の自治体や市民との息の長い協力も欠かせません。協会では、こうしたアニメツーリズムで4年後の2020年に国内や海外から400万人の観光客にアニメ聖地を訪問してもらう目標を掲げました。

富野理事長は「アニメを観ていて感じるものがあつたら、一度は舞台になった場所に足を運んでみてほしい。身体を動かして、その光景を実際に見て身体で感じた体験が新しい何かを教えてくれるはずです」と期待を示しています。



日本の文化の発信源

政府もアニメの分野を和食などと並ぶ日本独自の文化と位置づけ「クールジャパン」として海外発信の強化を進めています。リオデジャネイロオリンピックの閉会式で、安倍総理大臣がゲームキャラクターの「マリオ」の格好で登場したのも記憶に新しいと思います。アニメは、いまや日本の文化の発信源となり、経済を動かす重要な産業にもなりつつあると言えそうです。

指針外の新型出生前診断 東京の団体など検査あつせん 朝日新聞 2016年10月19日

妊婦の血液で胎児の染色体の異常を調べる新型出生前診断について、日本医学会が認可していない東京の民間団体と大阪の病院が、指針に外れた検査のあつせんに乗り出していることが18日、わかった。日本産科婦人科学会（日産婦）と日本医学会が対応を協議する。新型出生前診断は、遺伝カウンセリング体制の整備など日産婦の指針に基づき、日本医学会が認可した全国74カ所の医療機関で臨床研究として実施されている。現在、出産時に35歳以上などの妊婦を対象に3種類の染色体異常で検査をしている。

あつせんに乗り出していることがわかったのは、東京の民間団体「花園先端医学研究所」と大阪市内の奥野病院。いずれも採取した血液を英国の検査会社へ送って調べるといふ。年齢制限はなく、3種類以外にも性染色体異常も判定可能だとしている。

花園先端医学研究所は、ホームページを通じて「検査を受けたくても受けることができない妊婦が多くいることも大きな問題だ。違法性がない限り検査を提供すべきだ」などとする見解を発表。一方、日産婦の会員でもある奥野病院の奥野幸彦院長は、取材に「海外で広くやられている検査が、日本でできないのはおかしい。妊婦の希望に沿いたい」と話した。今月から受け付けを始め、来週にも採血を始める予定だといふ。

日産婦倫理委員長の苛原（いらはら）稔・徳島大教授は「会員が会告に従っていないとすればゆゆしき事態」とし、指針に外れた検査のあつせんについて、来月の倫理委員会で対応を協議するという。日本医学会でも理事会での協議を検討している。（福宮智代）



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行